

# 1. 「鳳凰山域における生物多様性の保全および増進に関する協働協定」について

## <協定の趣旨>

韮崎市西部に位置する日本製紙所有の鳳凰社有林において、生物多様性の保全と増進(ネイチャーポジティブ)に向けた協働活動を行うため、日本製紙(株)とそのグループ企業であるリンテック(株)、韮崎市の3者による協働協定を締結した。

### ■日本製紙株式会社

日本製紙グループは総合製紙メーカーであり、新聞・印刷用紙から家庭紙、板紙、機能性特殊紙まで幅広く製造・販売している。また、木材を活かしたバイオマス発電事業やケミカル製品・ヘルスケア製品なども手掛ける「総合バイオマス企業」として、国内に約9万haの社有林を所有する。鳳凰三山を含む鳳凰社有林は約1,400ha(東京ドーム約300個分。韮崎市の面積の約10分の1)で、令和5年には環境省の「自然共生サイト」にも登録されている。

### <自然共生サイトとは>

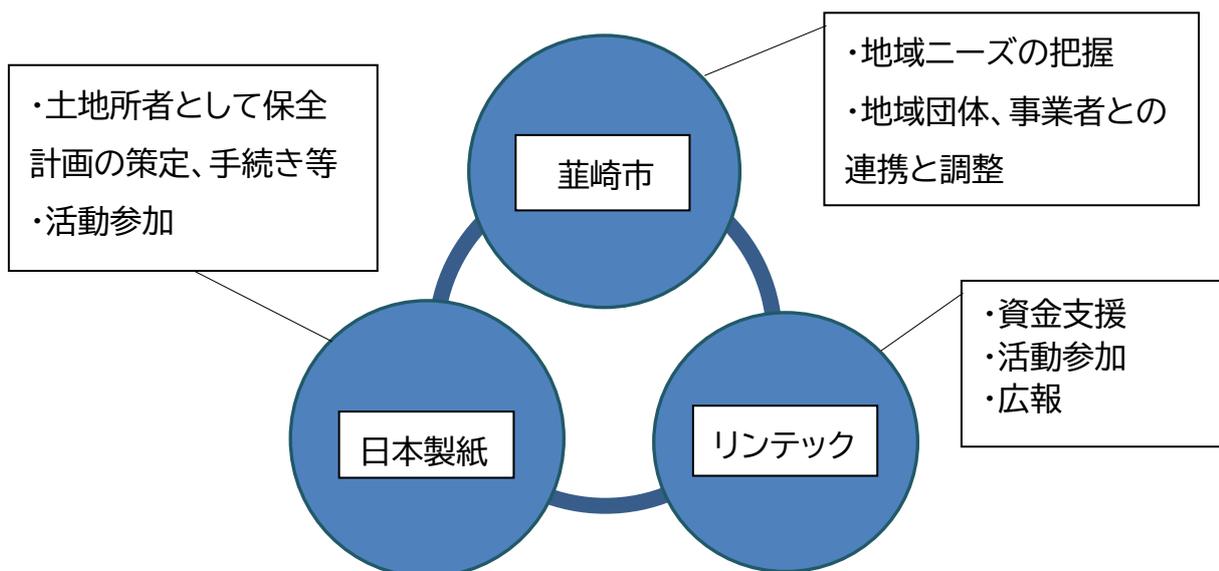
環境省が認定した、企業や民間団体等により生物多様性が守られている区域のこと。

### ■リンテック株式会社

「粘着技術」を核とした素材メーカー。日用品ラベル、建物や車両のウィンドーフィルム、カラー封筒用紙、半導体関連粘着テープ等、製品は多岐にわたり、国外18の国と地域にも拠点を展開している。カーボンニュートラルに向けた独自の「サステナブルビジョン」も設定し、環境課題への取り組みにも力を入れている。

## <協定の概要>

### ○3者の役割



### ○有効期間

締結より3年。

ただし以降は自動更新とし、最長10年(令和18年度末)にて満了とする。

## <R8 年度の活動予定>

\* 韮崎市が計画主体となるもの

項目	内容	場所
環境整備	案内板などの設置	中道登山口周辺
モニタリング調査	既存の防鹿柵周辺の植生調査	山小屋周辺、賽の河原(地藏岳)

※この他、日本製紙計画主体による中道登山口での清掃活動、フィールドスタディ(鳳凰社有林について学ぶ勉強会等)、地域団体・事業者との域内ワーキングなども実施予定。地域内関係者とも協議の上、継続的な視点の取り組みを行っていく。

\* 新設案内板イメージと現況図

- ・鳳凰山城地図
  - ・自然共生サイト
  - ・3者協定 等
- について記載予定



\* 高山帯に設置している防鹿柵



## <鳳凰山域における生物多様性の保全および増進に関する協働協定 締結式>

- 日時 令和8年 2月13日(金) 11:00~12:00
- 会場 韮崎市役所 4階 403会議室
- 登壇者 韮崎市長 内藤 久夫  
日本製紙株式会社 執行役員 原材料本部 本部長 佐藤 耕一 様  
リンテック株式会社 環境・安全統括本部 本部長 福田 二郎 様
- 来賓 山梨県(自然共生推進課)、環境省(南アルプス自然保護官事務所)  
山小屋事業者、白鳳会(地元山岳会)ほか、関係団体代表の方々

## 2. 「韮崎市ネイチャーポジティブ宣言」について

<ネイチャーポジティブとは>

2030年までに生物多様性をプラスに転じさせるという国際目標。その実現に向け、日本では企業や自治体が自らの行動指針について「ネイチャーポジティブ宣言」として表明することを推進している。

(参考)2025年12月現在 ネイチャーポジティブ宣言の参加団体 412 ※自治体では 23(県内では南アルプス市のみ)

⇒本協定のタイミングに合わせ、市としての自然環境保全への姿勢をあらためて表明する  
「韮崎市ネイチャーポジティブ宣言」を、協定締結式にて市長より発表いたしました。

ネイチャーポジティブ宣言では、最小限の目安として、生物多様性国家戦略の5つの基本戦略の少なくとも1つに該当する内容を含むものとされている。(韮崎市の場合は基本戦略1が該当となる)

